

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：平松友孝 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	音環境運営委員会	委員長名：加藤信介 主 査 名：平松友孝
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>床衝撃音の問題は、住宅性能評価・表示制度の評価項目にも挙げられ、一般消費者の関心も高く、各機関による研究も盛んに行われている分野であるが、建物の性能向上や住まい方の違いなどにより、測定法・評価法の見直しが必要になっている。そこで、本委員会では、床衝撃音に関する一連の検討を実施する。</p> <p>2005,2006 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走り回り等により生じる各種床衝撃音と、JIS 標準衝撃源等の対応性についての聴感評価実験を実施した。また、ボールに関する既往研究のレビュー、測定事例の収集を行った。これらから、JIS A 1418-2:²⁰⁰⁰に規定されるボールの普及可能性についての検討を行った。 ・2005 年 7 月にシンポジウム「床衝撃音の今後を考える」を開催。 ・2005 年大会で O.S.「床衝撃音の現状と今後の課題」を実施。 ・2007 年 3 月にシンポジウム「重量床衝撃音の標準衝撃源」を開催。 <p>2007,2008 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に関わる聴感評価実験を実施する。 ・ボールを衝撃音とした場合の評価方法に関して検討を行う。 ・以上の結果からボールによる測定方法・評価方法が適用可能と判断された場合には、具体的な適用の展開を図る。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り 平松友孝(主査：大成建設) 中澤真司(幹事：鉄建建設) 稲留康一(奥村組) 井上勝夫(日大理工) 岩本毅(三井住友建設) 漆戸雄(フジタ) 上明戸昇(飛鳥建設) 河原塚透(大成建設) 田中学(日総試) 中森俊介(小林理研) 濱田幸雄(日大工) 平光厚雄(建研) 藤橋克己(前田建設) 松岡明彦(戸田建設) 矢入幹記(鹿島建設)	
設置 WG (WG 名：目的)	設備機器に伴う固体音検討 WG を設置し、近年問題となっている設備機器固体音問題に関して検討を行う。	
2006 年度予算	187,500 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	委員会 6 回、SWG 8 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 59 回音シンポジウム「重量床衝撃音の標準衝撃源」 参加者数 105 名 (資料名) 第 59 回音シンポジウム「重量衝撃音の標準衝撃源」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. ほぼ計画通りに作業が達成でき、2007~2008 年度の活動に十分結びつくものと判断する。
委員会活動の問題点・課題	1. 実施した床衝撃音に関する聴感評価実験では、子供を含む 10 人の音源の収録、約 100 人に対する評価実験が有り、これらを手弁当で実施している現状がある。したがって、委員に対する負担が大きい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2005, 2006 年度実施した床衝撃音に関する聴感評価実験では、子供を含む 10 人と関連委員 15 人が休日に委員所属会社所有試験室に集合して衝撃音の収録を行い、その音源作りを、また 4 日間にわたり約 100 人に対する聴感評価実験を行った。さらに、この分析を委員の先生に多日数をかけて実施して頂いた。このような実験を委員会レベルで実施し、床衝撃源の今後の測定法・評価法の方に大きな影響をもたらす成果を出したことは、高く評価できる。これらの結果は、他の成果も含めて 3 月 6 日の第 59 回音シンポジウム「重量床衝撃音の標準衝撃源」で発表する。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。